

障がいのある児童生徒への配慮についての事項

障がいのある児童生徒などについては、学習活動を行う場合に生じる困難さに応じた指導内容や指導方法の工夫を計画的、組織的に行うこと。

小学校学習指導要領(平成 29 年告示)解説 各教科における障害のある児童への配慮についての事項(抜粋)
中学校学習指導要領(平成 29 年告示)解説 各教科における障害のある生徒への配慮についての事項(抜粋)
高等学校学習指導要領(平成 30 年告示)解説 各教科における障害のある生徒への配慮についての事項(抜粋)



小学校 P1~6

中学校 P7~12

高等学校 P13~22

【小学校 各教科等 例】

	困難さの状態	指導上の工夫の意図	手立て
国 語 P159	・文章を目で追いながら音読することが困難な場合	自分がどこを読むのかが分かるように	教科書の文を指等で押さえながら読むよう促すこと、行間を空けるために拡大コピーをしたものを用意すること、語のまとまりや区切りが分かるように分かち書きされたものを用意すること、読む部分だけが見える自助具(スリット等)を活用することなどの配慮をする。
	・自分の立場以外の視点で考えたり他者の感情を理解したりするのが困難な場合		児童の日常的な生活経験に関する例文を示し、行動や会話文に気持ちが込められていることに気付かせたり、気持ちの移り変わりが分かる文章の中のキーワードを示したり、気持ちの変化を図や矢印などで視覚的に分かるように示してから言葉で表現させたりするなどの配慮をする。
	・声を出して発表することに困難がある場合や、人前で話すことへの不安を抱いている場合		紙やホワイトボードに書いたものを提示したり、ICT 機器を活用して発表したりするなど、多様な表現方法が選択できるように工夫し、自分の考えを表すことに対する自信がもてるような配慮をする。
社 会 P139	・地図等の資料から必要な情報を見付け出したり、読み取ったりすることが困難な場合	読み取りやすくするために	地図等の情報を拡大したり、見る範囲を限定したりして、掲載されている情報を精選し、視点を明確にするなどの配慮をする。
	・社会的事象に興味・関心がもてない場合	その社会的事象の意味を理解しやすくするため 社会の営みと身近な生活がつながっていることを実感できるように	特別活動などとの関連付けなどを通して、具体的な体験や作業などを取り入れ、学習の順序を分かりやすく説明し、安心して学習できるように配慮することなどが考えられる。

	困難さの状態	指導上の工夫の意図	手立て
	・学習問題に気付くことが難しい場合	社会的事象を読み取りやすくするため	写真などの資料や発問を工夫すること、また、予想を立てることが困難な場合には、見通しがもてるようヒントになる事実をカード等に整理して示し、学習順序を考えられるようにすること。
	・情報収集や考察、まとめの場面において、考える際の視点が定まらない場合		見本を示したワークシートを作成するなどの指導の工夫が考えられる。
算 数 P327	・「商」「等しい」など、児童が日常使用することが少なく、抽象度の高い言葉の理解が困難な場合	児童が具体的にイメージをもつことができるよう	児童の興味・関心や生活経験に関連の深い題材を取り上げて、既習の言葉や分かる言葉に置き換えるなどの配慮をする。
	・文章を読み取り、数量の関係を式を用いて表すことが難しい場合	児童が数量の関係をイメージできるように	児童の経験に基づいた場面や興味ある題材を取り上げたり、場面を具体物を用いて動作化させたり、解決に必要な情報に注目できるよう文章を一部分ごとに示したり、図式化したりすることなどの工夫を行う。
	・空間図形のもつ性質を理解することが難しい場合	空間における直線や平面の位置関係をイメージできるように	立体模型で特徴のある部分を触らせるなどしながら、言葉でその特徴を説明したり、見取図や展開図と見比べて位置関係を把握したりするなどの工夫を行う。
	・データを目的に応じてグラフに表すことが難しい場合	目的に応じたグラフの表し方があることを理解するために	同じデータについて折れ線グラフの縦軸の幅を変えたグラフに表したり、同じデータを棒グラフや折れ線グラフ、帯グラフなど違うグラフに表したりして見比べることを通して、よりよい表し方に気付くことができるようにする。

	困難さの状態	指導上の工夫の意図	手立て
理科 P96	・実験を行う活動において、実験の手順や方法を理解することが困難であったり、見通しがもてなかったりして、学習活動に参加することが難しい場合	学習の見通しがもてるよう	実験の目的を明示したり、実験の手順や方法を視覚的に表したプリント等を掲示したり、配付したりするなどの配慮が考えられる。
	・燃烧実験のように危険を伴う学習活動において、危険に気が付きにくい場合		教師が確実に様子を把握できる場所で活動できるようにするなどの配慮が考えられる。
	・自然の事物・現象を観察する活動において、時間をかけて観察することが難しい場合		観察するポイントを示したり、ICT教材を活用したりするなどの配慮が考えられる。
生活科 P65	・言葉での説明や指示だけでは、安全に気を付けることが難しい児童の場合	その説明や指示の意味を理解し、なぜ危険なのかをイメージできるように	体験的な事前学習を行うなどの配慮をする。
	・みんなで使うもの等を大切に扱うことが難しい場合は	大切に扱うことの意義や他者の思いを理解できるように	学習場面に即して、児童の生活経験等も踏まえながら具体的に教えるように配慮する。
	・自分の経験を文章にしたり、考えをまとめたりすることが困難な場合	児童がどのように考えればよいのか、具体的なイメージを想起しやすいように	考える項目や順序を示したプリントを準備したり、事前に自分の考えたことを言葉や動作で表現したりしてから文章を書くようにするなどの配慮をする。
	・学習の振り返りの場面において学習内容の想起が難しい場合	学習経過を思い出しやすいように	学習経過などの分かる文章や写真、イラスト等を活用するなどの配慮をする。
<p>こうした配慮を行うに当たっては、困難さを補うという視点だけでなく、むしろ得意なことを生かすという視点から行うことにより、自己肯定感の醸成にもつながるものと考えられる。また、こうした意識で指導することは、障害のある児童への指導のみならず、低学年の全ての児童に対する指導として心掛けたいことである。生活科は、その教科の特質により、多様な認知の特性をもった児童の活躍が期待できる教科であるといえる。</p>			

	困難さの状態	指導上の工夫の意図	手立て
音楽 PI21	・音楽を形づくっている要素(リズム、速度、旋律、強弱、反復等)の聞き取りが難しい場合	要素に着目しやすくなるよう	音楽に合わせて一緒に拍を打ったり体を動かしたりするなどして、要素の表れ方を視覚化、動作化するなどの配慮をする。 なお、動作化する際は、決められた動きのパターンを習得するような活動にならないよう留意する。
	・多くの声部が並列している楽譜など、情報量が多く、児童がどこに注目したらよいのか混乱しやすい場合		拡大楽譜などを用いて声部を色分けしたり、リズムや旋律を部分的に取り出してカードにしたりするなど、視覚的に情報を整理するなどの配慮をする。
図画 工作 PI10	・変化を見分けたり、微妙な違いを感じ取ったりすることが難しい場合	造形的な特徴を理解し、技能を習得するように	児童の経験や実態を考慮して、特徴が分かりやすいものを例示したり、多様な材料や用具を用意したり、種類や数を絞ったりするなどの配慮をする。
	・形や色などの特徴を捉えることや、自分のイメージをもつことが難しい場合は	形や色などに気付くことや自分のイメージをもつことのきっかけを得られるように	自分や友人の感じたことや考えたことを言葉にする場を設定するなどの配慮をする。
体育 PI65	・複雑な動きをしたり、バランスを取ったりすることに困難がある場合	極度の不器用さや動きを組み立てることへの苦手さがあることが考えられることから、	動きを細分化して指導したり、適切に補助をしながら行ったりするなどの配慮をする。
	・勝ち負けに過度にこだわったり、負けた際に感情を抑えられなかったりする場合	活動の見通しがもてなかったり、考えたことや思ったことをすぐに行動に移してしまったりすることがあることから、	活動の見通しを立ててから活動させたり、勝ったときや負けたときの表現の仕方を事前に確認したりするなどの配慮をする。
家庭 科 P75	・学習に集中したり、持続したりすることが難しい場合	落ち着いて学習できるようにするため	道具や材料を必要最小限に抑えて準備したり、整理・整頓された学習環境で学習できるよう工夫したりすることが考えられる。

	困難さの状態	指導上の工夫の意図	手立て
	・活動への関心をもつことが難しい場合		約束や注意点、手順等を視覚的に捉えられる掲示物やカードを明示したり、体感できる教材・教具を活用したりして関心を高めることが考えられる。
	・周囲の状況に気が散りやすく、包丁、アイロン、ミシンなどの用具を安全に使用することが難しい場合	手元に集中して安全に作業に取り組めるよう	個別の対応ができるような作業スペースや作業時間を確保することなどが考えられる。
外国語 PI26	・音声を聞き取ることが難しい場合	外国語と日本語の音声やリズムの違いに気付くことができるよう	リズムやイントネーションを、教員が手拍子を打つ、音の強弱を手を上下に動かして表すなどの配慮をする。 また、本時の流れが分かるように、本時の活動の流れを黒板に記載しておくなどの配慮をする。
	・1単語当たりの文字数が多い単語や、文などの文字情報になると、読む手掛かりをつかんだり、細部に注意を向けたりするのが難しい児童の場合	語のまとまりや文の構成を見て捉えやすくするよう	外国語の文字を提示する際に字体をそろえたり、線上に文字を書いたり、語彙・表現などを記したカードなどを黒板に貼る際には、貼る位置や順番などに配慮する。
特別活動 PI48	・相手の気持ちを察したり理解したりすることが苦手な児童には	他者の心情等を理解しやすいように	役割を交代して相手の気持ちを考えたり、相手の意図を理解しやすい場面に置き換えたりすることや、イラスト等を活用して視覚的に表したりする指導を取り入れるなどの配慮をする。
	・話を最後まで聞いて答えることが苦手な場合	発言するタイミングが理解できるように	事前に発言や質問する際のタイミングなどについて具体的に伝えるなど、コミュニケーションの図り方についての指導をする。

	困難さの状態	指導上の工夫の意図	手立て
	・学校行事における避難訓練等の参加に対し、強い不安を抱いたり戸惑ったりする場合	見通しがもてるよう	各活動・学校行事のねらいや活動の内容、役割（得意なこと）の分担などについて、視覚化したり、理解しやすい方法を用いたりして事前指導を行うとともに、周囲の児童に協力を依頼しておく。
総合的な学習の時間 P43	・様々な事象を調べたり、得られた情報をまとめたりすることに困難がある場合	必要な事象や情報を選択して整理できるように	着目する点や調べる内容、まとめる手順や調べ方について具体的に提示するなどの配慮をする。
	・関心のある事柄を広げることが難しい場合	関心のもてる範囲を広げることができるように	現在の関心事を核にして、それと関連する具体的な内容を示していくことなどの配慮をする。
	・様々な情報の中から、必要な事柄を選択して比べることが難しい場合	具体的なイメージをもって比較することができるように	比べる視点の焦点を明確にしたり、より具体化して提示したりするなどの配慮をする。
	・学習の振り返りが難しい場合	学習してきた場面を想起しやすいように	学習してきた内容を文章やイラスト、写真等で視覚的に示すなどして、思い出すための手掛かりが得られるように配慮する。
	・人前で話すことへの不安から、自分の考えなどを発表することが難しい場合	安心して発表できるように	発表する内容について紙面に整理し、その紙面を見ながら発表できるようにすること、ICT 機器を活用したりするなど、児童の表現を支援するための手立てを工夫できるように配慮する。

(参考) 特別の教科 道徳 P113

発達障害等のある児童に対する指導や評価を行う上では、それぞれの学習の過程で考えられる「困難さの状態」をしっかり把握した上で必要な配慮が求められる。

例えば、他者との社会的関係の形成に困難がある児童の場合であれば、相手の気持ちを想像することが苦手で字義どおりの解釈をしてしまうことがあることや、暗黙のルールや一般的な常識が理解できないことがあることなど困難さの状況を十分に理解した上で、例えば、他者の心情を理解するために役割を交代して動作化、劇化したり、ルールを明文化したりするなど、学習過程において想定される困難さとそれに対する指導上の工夫が必要である。

なお、学校においては、こうした点を踏まえ、個別の指導計画を作成し、必要な配慮を記載し、翌年度の担任等に引き継ぐことなどが必要である。

【中学校 各教科等 例】

	困難さの状態	指導上の工夫の意図	手立て
国 語 P135	・自分の立場以外の視点で考えた り他者の感情を理解したりするの が困難な場合	生徒が身近に感じられる文章（例え ば、同年代の主人公の物語など）を 取り上げ、文章に表れている心情や その変化等が分かるように	行動の描写や会話文に含まれてい る気持ちがよく伝わってくる語句等に 気付かせたり、心情の移り変わりが 分かる文章の中のキーワードを示し たり、心情の変化を図や矢印などで 視覚的に分かるように示してから言 葉で表現させたりするなどの配慮を する。
	・比較的長い文章を書くときなど、 一定量の文字を書くことが困難な 場合	文字を書く負担を軽減するため	手書きだけではなくICT 機器を使っ て文章を書くことができるようにする などの配慮をする。
	・声を出して発表することに困難が ある場合や人前で話すことへの不 安を抱いている場合		紙やホワイトボードに書いたものを提 示したり ICT 機器を活用したりして 発表するなど、多様な表現方法が選 択できるように工夫し、自分の考えを 表すことに対する自信がもてるよう な配慮をする。
社 会 P173	・地図等の資料から必要な情報を見 つけ出したり、読み取ったりする ことが困難な場合	読み取りやすくするために	地図等の情報を拡大したり、見る範 囲を限定したりして、掲載されている 情報を精選し、視点を明確にするな どの配慮をする。
	・社会的事象等に興味・関心がも てない場合	その社会的事象等の意味を理解し やすくするため	社会の動きと身近な生活がつながっ ていることを実感できるよう、特別活 動などとの関連付けなどを通して、 実際的な体験を取り入れ、学習の順 序を分かりやすく説明し、安心して学 習できるようにするなどの配慮をす る。
	・学習過程における動機付けの場 面において学習上の課題を見いだ すことが難しい場合	社会的事象等を読み取りやすくす るため	写真などの資料や発問を工夫するこ と
	・方向付けの場面において、予想を 立てることが困難な場合	見通しがもてるよう	ヒントになる事実をカード等に整理し て示し、学習順序を考えられるよう にすること

	困難さの状態	指導上の工夫の意図	手立て
	・情報収集や考察、まとめの場面において、どの観点で考えるのか難しい場合		ヒントが記入されているワークシートを作成することなどの配慮をする。
数 学 PI64	・文章を読み取り、数量の関係を文字式を用いて表すことが難しい場合	生徒が数量の関係をイメージできるように	生徒の経験に基づいた場面や興味のある題材を取り上げ、解決に必要な情報に注目できるように印を付けさせたり、場面を図式化したりすることなどの工夫を行う。
	・空間図形のもつ性質を理解することが難しい場合	空間における直線や平面の位置関係をイメージできるように	立体模型で特徴のある部分を触らせるなどしながら、言葉でその特徴を説明したり、見取図や投影図と見比べて位置関係を把握したりすることなどの工夫を行う。
理 科 PI18	・実験を行う活動において、実験の手順や方法を理解することが困難である場合	見通しがもてるよう	実験の操作手順を具体的に明示したり、扱いやすい実験器具を用いたりすることなどの配慮をする。 また、燃焼実験のように危険を伴う学習活動においては、教師が確実に様子を把握できる場所で活動させることなどの配慮をする。
音 楽 P95	・音楽を形づくっている要素（音色、リズム、速度、旋律、テクスチャ、強弱、形式、構成など）を知覚することが難しい場合	要素に着目しやすくできるように	音楽に合わせて一緒に拍を打ったり体を動かしたりするなどして、要素の表れ方を視覚化、動作化するなどの配慮をする。なお、動作化する際は、決められた動きのパターンを習得するような活動にならないよう留意する。
	・音楽を聴くことによって自分の内面に生まれる様々なイメージや感情を言語化することが難しい場合	表現したい言葉を思い出すきっかけとなるよう	イメージや感情を表す形容詞などのキーワードを示し、選択できるようにすることなどの配慮をする。
美 術 PI22	・形や色彩などの変化を見分けたり、微妙な変化を感じ取ったりすることが難しい場合	生徒の実態やこれまでの経験に応じて、造形の要素の特徴や働きが分かりやすいものを例示することや、一人一人が自分に合ったものが選べるように	多様な材料や用具を用意したり種類や数を絞ったり、造形の要素の特徴や働きが分かりやすいものを例示したりすることなどの配慮をする。

	困難さの状態	指導上の工夫の意図	手立て
	・造形的な特徴などからイメージを捉えることが難しい場合	形や色などに対する気付きや豊かなイメージにつながるように	自分や他の人の感じたことや考えたことを言葉にする場を設定する。
保 健 体 育 P233	・見えにくさのため活動に制限がある場合	不安を軽減したり安全に実施したりすることができるよう	活動場所や動きを事前に確認したり、仲間同士で声を掛け合う方法を事前に決めたり、音が出る用具を使用したりするなどの配慮をする。
	・身体の動きに制約があり、活動に制限がある場合	生徒の実情に応じて仲間と積極的に活動できるよう	用具やルールの変更を行ったり、それらの変更について仲間と話し合う活動を行ったり、必要に応じて補助用具の活用を図ったりするなどの配慮をする。
	・リズムやタイミングに合わせて動くことや複雑な動きをすること、ボールや用具の操作等が難しい場合	動きを理解したり、自ら積極的に動いたりすることができるよう	動きを視覚的又は言語情報に変更したり簡素化したりして提示する、動かす体の部位を意識させる、操作が易しい用具の使用や用具の大きさを工夫したりするなどの配慮をする。
	・試合や記録測定、発表などの状況の変化への対応が求められる学習活動への参加が難しい場合	生徒の実情に応じて状況の変化に対応できるようにするために	挑戦することを認め合う雰囲気づくりに配慮したり、ルールの弾力化や場面設定の簡略化を図ったりするなどの配慮をする。
	・日常生活とは異なる環境での活動が難しい場合	不安を解消できるよう	学習の順序や具体的な内容を段階的に説明するなどの配慮をする。
	・対人関係への不安が強く、他者の体に直接触れることが難しい場合	仲間とともに活動することができるよう	ロープやタオルなどの補助用具を用いるなどの配慮をする。
	・自分の力をコントロールすることが難しい場合	状況に応じて力のコントロールができるよう	力の出し方を視覚化したり、力の入れ方を数値化したりするなどの配慮をする。
	・勝ち負けや記録にこだわり過ぎて、感情をコントロールすることが難しい場合	状況に応じて感情がコントロールできるよう	事前に活動の見通しを立てたり、勝ったときや負けたとき等の感情の表し方について確認したりするなどの配慮をする。

	困難さの状態	指導上の工夫の意図	手立て
	・グループでの準備や役割分担が難しい場合	準備の必要性やチームで果たす役割の意味について理解することができよう	準備や役割分担の視覚的な明示や生徒の実情に応じて取り組むことができる役割から段階的に取り組ませるなどの配慮をする。
	・保健の学習で、実習などの学習活動に参加することが難しい場合	実習の手順や方法が理解できるよう	それらを視覚的に示したり、一つ一つの技能を個別に指導したりするなどの配慮をする。
技術 家庭 PI25	・技術分野では、「A材料と加工の技術」の(2)において、周囲の状況に気が散りやすく、加工用の工具や機器を安全に使用することが難しい場合	障害の状態に応じて、手元に集中して安全に作業に取り組めるように	個別の対応ができるような作業スペースや作業時間を確保したり、作業を補助するジグを用いたりすることが考えられる。
	・「D情報の技術」の(2)及び(3)において、新たなプログラムを設計することが難しい場合	生徒が考えやすいように	教師があらかじめ用意した幾つかの見本となるプログラムをデータとして準備し、一部を自分なりに改良できるようにするなど、難易度の調整や段階的な指導に配慮することが考えられる。
	・家庭分野では、「B衣食住の生活」の(3)及び(5)において、調理や製作等の実習を行う際、学習活動の見通しをもったり、安全に用具等を使用したりすることが難しい場合	個に応じて段階的に手順を写真やイラストで提示することや、安全への配慮を徹底するために	実習中の約束事を決め、随時生徒が視覚的に確認できるようにすることなどが考えられる。
	・グループで活動することが難しい場合		他の生徒と協力する具体的な内容を明確にして役割分担したり、役割が実行できたかを振り返ることができるようにしたりすることなどが考えられる。
外国語 P88	・英語の語には、発音と綴りの関係に必ずしも規則性があるとは限らないものが多く、明確な規則にこだわって強い不安や抵抗感を抱いてしまう生徒の場合		語を書いたり発音したりすることをねらう活動では、その場で発音することを求めず、ねらいに沿って安心して取り組めるようにしたり、似た規則の語を選んで扱うことで、安心して発音できるようにしたりするなどの配慮をする。

	困難さの状態	指導上の工夫の意図	手立て
特別活動 P122	・相手の気持ちを察したり理解することが苦手な生徒には	他者の心情等を理解しやすいように	役割を交代して相手の気持ちを考えたり、相手の意図を理解しやすい場面に置き換えることや、イラスト等を活用して視覚的に表したりする指導を取り入れるなどの配慮をする。
	・話を最後まで聞いて答えることが苦手な場合	発言するタイミングが理解できるように	事前に発言や質問する際のタイミングなどについて具体的に伝えるなど、コミュニケーションの図り方についての指導をする。
	・学校行事における避難訓練等の参加に対し、強い不安を抱いたり戸惑ったりする場合	見通しがもてるよう	各活動や学校行事のねらいや活動の内容、役割(得意なこと)の分担などについて、視覚化したり、理解しやすい方法を用いたりして事前指導を行うとともに、周囲の生徒に協力を依頼しておく。
総合的な学習の時間 P43	・様々な事象を調べたり、得られた情報をまとめたりすることに困難がある場合	必要な事象や情報を選択して整理できるように	着目する点や調べる内容、まとめる手順や調べ方について具体的に提示するなどの配慮をする。
	・関心のある事柄を広げることが難しい場合	関心のもてる範囲を広げることができるように	現在の関心事を核にして、それと関連する具体的な内容を示していくことなどの配慮をする。
	・様々な情報の中から、必要な事柄を選択して比べることが難しい場合	具体的なイメージをもって比較することができるように	比べる視点の焦点を明確にしたり、より具体化して提示したりするなどの配慮をする。
	・学習の振り返りが難しい場合	学習してきた場面を想起しやすいように	学習してきた内容を文章やイラスト、写真等で視覚的に示すなどして、思い出すための手掛かりが得られるように配慮する。
	・人前で話すことへの不安から、自分の考えなどを発表することが難しい場合	安心して発表できるように	発表する内容について紙面に整理し、その紙面を見ながら発表できるようにすること、ICT 機器を活用したりするなど、生徒の表現を支援するための手立てを工夫できるように配慮する。

(参考) 特別の教科 道徳

発達障害等のある生徒に対する指導や評価を行う上では、それぞれの学習の過程で考えられる「困難さの状態」をしっかりと把握した上で必要な配慮が求められる。

例えば、他者との社会的関係の形成に困難がある生徒の場合であれば、相手の気持ちを想像することが苦手で字義どおりの解釈をしてしまうことがあることや、暗黙のルールや一般的な常識が理解できないことがあることなど困難さの状況を十分に理解した上で、例えば、他者の心情を理解するために役割を交代して動作化、劇化したり、ルールを明文化したりするなど、学習過程において想定される困難さとそれに対する指導上の工夫が必要である。

なお、学校においては、こうした点を踏まえ、個別の指導計画を作成し、必要な配慮を記載し、翌年度の担任等に引き継ぐことなどが必要である。



【高等学校 各教科等 例】

	困難さの状態	指導上の工夫の意図	手立て
国 語 編 P277	・自分の立場以外の視点で考えたり他者の感情を理解したりするのが困難な場合	生徒が身近に感じられる文章(例えば、同年代の主人公の物語など)を取り上げ、文章に表れている心情やその変化等が分かるよう	行動の描写や会話文に含まれている気持ちがよく伝わってくる語句等に気付かせたり、心情の移り変わりが分かる文章の中のキーワードを示したり、心情の変化を図や矢印などで視覚的に分かるように示してから言葉で表現させたりするなどの配慮をする。
	・比較的長い文章を書くなど、一定量の文字を書くことが困難な場合	文字を書く負担を軽減するため	手書きだけではなくICT機器を使って文章を書くことができるようにするなどの配慮をする。
	・声を出して発表することに困難がある場合や人前で話すことへの不安を抱いている場合		紙やホワイトボードに書いたものを提示したりICT機器を活用したりして発表するなど、多様な表現方法が選択できるように工夫し、自分の考えを表すことに対する自信がもてるような配慮をする。
地 理 歴 史 編 P353	・地図等の資料から必要な情報を見付け出したり、読み取ったりすることが困難な場合	読み取りやすくするために	地図等の情報を拡大したり、見る範囲を限定したりして、掲載されている情報を精選し、視点を明確にするなどの配慮をする。
	・社会的事象等に興味・関心がもてない場合	その社会的事象等の意味を理解しやすくするため 社会の動きと身近な生活がつながっていることを実感できるように	特別活動などとの関連付けなどを通して、実際的な体験を取り入れ、学習の順序を分かりやすく説明し、安心して学習できるようにするなどの配慮をする。
	・学習過程における動機付けの場面において学習上の課題を見いだすことが難しい場合	社会的事象等を読み取りやすくするために	写真などの資料や発問を工夫する
	・方向付けの場面において、予想を立てることが困難な場合	見通しがもてるよう	ヒントになる事実をカード等に整理して示し、学習順序を考えられるようにする

	困難さの状態	指導上の工夫の意図	手立て
	・情報収集や考察、まとめの場面において、どの観点で考えるのか難しい場合		ヒントが記入されているワークシートを作成することなどの配慮をする。
公民編 PI62	・地図等の資料から必要な情報を見付け出したり、読み取ったりすることが困難な場合	読み取りやすくするために	地図等の情報を拡大したり、見る範囲を限定したりして、掲載されている情報を精選し、視点を明確にするなどの配慮をする。
	・社会的事象等に興味・関心がもてない場合	その社会的事象等の意味を理解しやすくするため 社会の動きと身近な生活がつながっていることを実感できるように	特別活動などとの関連付けなどを通して、実際的な体験を取り入れ、学習の順序を分かりやすく説明し、安心して学習できるようにするなどの配慮をする。
	・学習過程における動機付けの場面において学習上の課題を見いだすことが難しい場合	社会的事象等を読み取りやすくするために	写真などの資料や発問を工夫する。
	・方向付けの場面において、予想を立てることが困難な場合	見通しがもてるよう	ヒントになる事実をカード等に整理して示し、学習順序を考えられるようにする。
	・情報収集や考察、まとめの場面において、どの観点で考えるのか難しい場合		ヒントが記入されているワークシートを作成することなどの配慮をする。
数理学数編 PI32	・文章を読み取り、数量の関係を文字式を用いて表すことが難しい場合	生徒が数量の関係をイメージできるように	生徒の経験に基づいた場面や興味のある題材を取り上げ、解決に必要な情報に注目できるよう印を付けさせたり、場面を図式化したりすることなどの工夫を行う。
	・空間図形のもつ性質を理解することが難しい場合	空間における直線や平面の位置関係をイメージできるように	立体模型で特徴のある部分を触らせるなどしながら、言葉でその特徴を説明したり、見取図や投影図と見比べて位置関係を把握したりするなどの工夫を行う。
理科数編 PI83	・実験を行う活動において、実験の手順や方法を理解することが困難である場合	見通しがもてるよう	実験の操作手順を具体的に明示したり、扱いやすい実験器具を用いたりするなどの配慮をする。
	燃焼実験のように危険を伴う学習活動においては、教師が確実に様子を把握できる場所で活動させるなどの配慮をする。		

保体 健育	困難さの状態	指導上の工夫の意図	手立て
体編 育編 P223	・見えにくさのため活動に制限がある場合	不安を軽減したり安全に実施したりすることができるよう	活動場所や動きを事前に確認したり、仲間同士で声を掛け合う方法を事前に決めたり、音が出る用具を使用したりするなどの配慮をする。
	・身体の動きに制約があり、活動に制限がある場合	生徒の実情に応じて仲間と積極的に活動できるよう	用具やルールの変更を行ったり、それらの変更について仲間と話し合う活動を行ったり、必要に応じて補助用具の活用を図ったりするなどの配慮をする。
	・リズムやタイミングに合わせて動くことや複雑な動きをすること、ボールや用具の操作等が難しい場合	動きを理解したり、自ら積極的に動いたりすることができるよう	動きを視覚的又は言語情報に変更したり簡素化したりして提示する、動かす体の部位を意識させる、操作が易しい用具の使用や用具の大きさを工夫したりするなどの配慮をする。
	・試合や記録測定、発表などの状況の変化への対応が求められる学習活動への参加が難しい場合	生徒の実情に応じて状況の変化に対応できるようにするために	挑戦することを認め合う雰囲気づくりに配慮したり、ルールの弾力化や場面設定の簡略化を図ったりするなどの配慮をする。
	・日常生活とは異なる環境での活動が難しい場合	不安を解消できるよう	学習の順序や具体的な内容を段階的に説明するなどの配慮をする。
	・対人関係への不安が強く、他者の体に直接接触することが難しい場合	仲間とともに活動することができるよう	ロープやタオルなどの補助用具を用いるなどの配慮をする。
	・自分の力をコントロールすることが難しい場合	状況に応じて力のコントロールができるよう	力の出し方を視覚化したり、力の入れ方を数値化したりするなどの配慮をする。
	・勝ち負けや記録にこだわり過ぎて、感情をコントロールすることが難しい場合	状況に応じて感情がコントロールできるよう	事前に活動の見通しを立てたり、勝ったときや負けたとき等の感情の表し方について確認したりするなどの配慮をする。

	困難さの状態	指導上の工夫の意図	手立て
	・グループでの準備や役割分担が難しい場合	準備の必要性やチームで果たす役割の意味について理解することができるよう	準備や役割分担の視覚的な明示や生徒の実情に応じて取り組むことができる役割から段階的に取り組ませるなどの配慮をする。
	・保健の学習で 実習などの学習活動に参加することが難しい場合	実習の手順や方法が理解できるよう	それらを視覚的に示したり、一つ一つの技能を個別に指導したりするなどの配慮をするなどの配慮をする。
芸術編 音楽編	・音楽において、音楽を形づくっている要素（音色、リズム、速度、旋律、テクスチャ、強弱、形式、構成など）を知覚することが難しい場合	要素に着目しやすくできるよう	音楽に合わせて一緒に拍を打ったり体を動かしたりするなどして、要素の表れ方を視覚化、動作化するなどの配慮をする。 なお、動作化する際は、決められた動きのパターンを習得するような活動にならないよう留意する。
美術編 P368	・美術において、形や色彩、材料などの変化を見分けたり、微妙な変化を感じ取ったりすることが難しい場合	生徒の実態やこれまでの経験に応じて、造形の要素の特徴や働きが分かりやすいものを例示することや、主題に応じて一人一人が自分に合ったものが選べるよう	多様な材料や用具を用意したり種類や数を絞ったりするなどの配慮をする。
	・工芸において、形や色彩、素材などの変化を見分けたり、微妙な変化を感じ取ったりすることが難しい場合		生徒の実態やこれまでの経験に応じて、造形の要素の特徴や働きが分かりやすいものを用意して実際に触れてみたり使ってみたりすることや、目的や条件、機能などに応じて一人一人が自分に合ったものが選べるように、いくつかの材料や用具を用意したり種類や数を絞ったりするなどの配慮をする。
	・書道において、自らの意図にふさわしい用具・用材の選択や扱い方を理解することや、書を構成する複数の要素を結び付けて考えたり、再現する手順を考えたりすることが難しい場合		用具・用材を体験的に使用する機会を設けたり、書を構成する要素をグループ分けや優先順位を付けて示すなどして、主体的に思考、判断しながら学習を進められるよう配慮をする。
外英 国語編 編 PI29	英語の語には、発音と綴りの関係に必ずしも規則性があるとは限らないものが多く、明確な規則にこだわって強い不安や抵抗感を抱いてしまう生徒の場合、語を書いたり発音したりすることをねらいとする活動では、その場で発音することを求めず、ねらいに沿って安心して取り組めるようにしたり、似た規則の語を選んで扱うことで、安心して発音できるようにしたりするなどの配慮をする必要がある。		

家庭編	困難さの状態	指導上の工夫の意図	手立て
P87	・作業に見通しをもつことが難しい場合	作業を安全かつ円滑に進めるために	例えば、調理や被服製作などの完成までの過程を、順番がわかるように写真やイラスト、実物や標本などを用いて、具体的に示すなどの工夫が考えられる。
	作業を行う際には、指示を一つずつ出すなどわかりやすい指示を心がけるとともに、適切な時間を設定するなど注意に集中できるよう工夫することが大切である。		
	・集団場面での口頭による指示や理解が難しい場合	例えば、包丁、アイロン、ミシンなどの使用に際して、事故を防止する方法を理解できるよう	実習室等の学習環境の整備については、例えば、調理器具や食器などの収納場所をイラストや写真等で示したり、可燃物と不燃物のゴミ箱を色分けしたりするなど視覚的な工夫をすることも考えられる。
情報編 P63	・コンピュータ等の画面が見えにくい場合	情報を的確に取得できるよう	文字等を拡大したり、フォントを変更したり、文字と背景の色を調整したりするなどの配慮をする。
	・コンピュータ等の発する音が聞き取りにくい場合	情報を的確に取得できるよう	音の代わりに光や振動、画面上の表示で伝えたり、スピーカーを適切な位置に設置したり、また、音量の調整やヘッドホンの使用などの配慮をする。
	・キーボードによる文字入力やマウス操作等の動作に困難がある場合	コンピュータ等の操作が可能となるよう	レバー操作型のコントローラーなどの入力手段を使えるようにするなどの配慮をする。
	・コンピュータ等の画面上の文字を目で追って読むことに困難がある場合	どこを読んでいるのかが分かるよう	読んでいる箇所をハイライト表示や反転表示するなどの配慮をする。

	困難さの状態	指導上の工夫の意図	手立て
	・コンピュータ等を扱いながら、指示を聞くことに困難がある場合	同時に二つの作業が重なることがないよう	まずは手を止めるよう指示をしてから次の話をするなどの配慮をする
	・集中して学習を継続することが難しい場合	見通しをもって学習に取り組めるよう	学習活動の手順を視覚化して明示したり、スモールステップで学習を展開できるようにしたりするなどの配慮をする。
	・自ら問題解決の計画を立てたり設計したりすることが難しい場合	生徒が学習に取り組みやすくなるよう	あらかじめ用意した計画や設計から生徒が選択したり、それらの一部を改良する課題に取り組めるようにするなど、段階的な指導を行うなどの配慮をする。
理 数 編 P47	・文章を読み取り、数量の関係を文字式を用いて表すことが難しい場合	生徒が数量の関係をイメージできるように	生徒の経験に基づいた場面や興味のある題材を取り上げ、解決に必要な情報に注目できるよう印を付けさせたり、場面を図式化したりすることなどの工夫を行う。
	・空間図形のもつ性質を理解することが難しい場合	空間における直線や平面の位置関係をイメージできるように	立体模型で特徴のある部分を触らせるなどしながら、言葉でその特徴を説明したり、見取図や投影図と見比べて位置関係を把握したりするなどの工夫を行う。
	・実験を行う活動において、実験の手順や方法を理解することが困難である場合	見通しがもてるよう	実験の操作手順を具体的に明示したり、扱いやすい実験器具を用いたりするなどの配慮をする。
	燃焼実験のように危険を伴う学習活動においては、教師が確実に様子を把握できる場所で活動させるなどの配慮をする。		
農 業 編 P262	・実験実習の全体像を把握できないなど学習活動への参加が困難な場合	学習の見通しをもてるように	資料等で示すとともに、手順や方法の理解を促すよう実物を明示したり、実際の作業を例示したりするなど、全体の流れの中で、この作業にはどのような役割があり、どのようにつながっているかなど具体的に示すよう配慮すること。

	困難さの状態	指導上の工夫の意図	手立て
	・機器の操作、薬品の使用などに伴う安全面の留意事項について、集団の場面での口頭による指示の理解が困難な場合	事故を防止する方法を理解しやすいよう	全体での指導を行った上で、個別に指導をしたり、実際の動作で示したりするなどの配慮を行う。
工業編 P377	・実験・実習の全体像を俯瞰できないなど学習活動への参加が困難な場合	学習の見通しをもてるよう	それらの手順や方法の視覚的な明示や、全体の流れの中で何を学習しているのかを示すなどの配慮を行うことが考えられる。
	・機械や装置類の操作、毒物及び劇物などの各種薬品や薬剤、可燃物の使用に際しては、安全面などの留意点について、集団場面での口頭による指示の理解が困難な場合	事故を防止する方法を理解しやすいよう	全体での指導を行った上で、個別に指導をしたり、実際の動作で示したりするなどの配慮を行う。
商業編 P162	・実習において、その手順や方法を理解することが困難である場合	見通しがもてるよう	手順や方法を具体的に明示するなどの配慮をする。
	・グループで活動することが難しい場合		他の生徒と協力する具体的な内容を明確にして役割分担するとともに、役割を果たすことができたかを振り返ることができるようにするなどの配慮をする。
水産編 P176	・実験・実習の全体像を俯瞰できないなど学習活動への参加が困難な場合	学習の見通しを持てるようになるため	それらの手順や方法を視覚的に明示したり、全体の流れの中で今どこを学習しているのかを示したりするなどの配慮を行う。 なお、海洋や河川、湖沼などで実施する実習は天候や海況等の変化に伴う影響が考えられることから、見やすさ、聞き取りやすさなどへの十分な配慮が必要である。
	・機器の操作、薬品や可燃物の使用などに伴う安全面の留意点について、集団場面での口頭による指示の理解が困難な場合	事故を防止する方法を理解しやすいようにするため	全体での指導を行った上で個別に指導を行ったり、実際に動作で示したりするなどの配慮を行う。

看護編	困難さの状態	指導上の工夫の意図	手立て
P98	・実習や演習を行う活動において、状況設定や実施方法を理解することが困難である場合	見通しがもてるよう	実習や演習の手順等を具体的に明示したり、扱いやすい器具を用いたりするなどの配慮をする。 また、温湯を用いる清拭や注射の準備などの危険を伴う学習活動においては、教師が確実に様子を把握できるように配慮する。
福祉編 P77	・学習に集中したり、持続したりすることが困難な場合	学習への意欲を喚起するように	学習環境を整理・整頓することや学習のルールや手順を視覚的に明示するなど教材・教具を活用すること こまめに努力を認める声かけをすること スモールステップによる学習、ペアやグループでの学び合い等学習方法を工夫することなどが考えられる。 その際、具体的に簡単な言い方で伝えること おだやかに話しかけること 否定的な言葉を避けること 苦手なことよりも得意なことを認め、集団の中で当該生徒が活かされていると実感し、自信がもてるような工夫をするなどの配慮を行う。
	・同時に複数の事項に注意を向けることが困難な場合	優先順位が分かるように	事項を減らしたり 活動の区切りを設けたり 指示事項や留意すべき点を示したカードを用いたりすることなどが考えられる。
	・実験・実習の全体像を俯瞰できないなど学習活動への参加が困難な場合	学習の見通しをもてるようにするため	前もってそれらの手順や方法を視覚的に明示したり、全体の流れの中で今どこを学習しているかを示したりすることなどの配慮を行う。
総合的な	・様々な事象を調べたり、得られた情報をまとめたりすることに困難がある場合	必要な事象や情報を選択して整理できるように	着目する点や調べる内容、まとめる手順や調べ方について具体的に提示するなどの配慮をする。

探究 の 時 間 編	困難さの状態	指導上の工夫の意図	手立て
P44	・関心のある事柄を広げることが難しい場合	関心もてる範囲を広げることができるように	現在の関心事を核にして、それと関連する具体的な内容を示していくことなどの配慮をする。
	・様々な情報の中から、必要な事柄を選択して比べることが難しい場合	具体的なイメージをもって比較することができるように	比べる視点の焦点を明確にしたり、より具体化して提示したりするなどの配慮をする。
	・学習の振り返りが難しい場合	学習してきた場면을想起しやすいように	学習してきた内容を文章やイラスト、写真等で視覚的に示すなどして、思い出すための手掛かりが得られるように配慮する。
	・人前で話すことへの不安から、自分の考えなどを発表することが難しい場合	安心して発表できるように	発表する内容について紙面に整理し、その紙面を見ながら発表できるようにすること、ICT 機器を活用したりするなど、生徒の表現を支援するための手立てを工夫できるように配慮する。
このほか、総合的な探究の時間においては、各教科・科目等の特質に応じて育まれる「見方・考え方」を総合的・統合的に働かせるような学習を行うため、特別支援教育の視点から必要な配慮等については、各教科・科目等における配慮を踏まえて対応することが求められる。こうした配慮を行うに当たっては、困難さを補うという視点だけでなく、むしろ得意なことを生かすという視点から行うことにより、自己肯定感の醸成にもつながるものと考えられる。			
特別 活 動 編	・相手の気持ちを察したり理解することが苦手な生徒には	他者の心情等を理解しやすいように	役割を交代して相手の気持ちを考えたり、相手の意図を理解しやすい場面に置き換えることや、イラスト等を活用して視覚的に表したりする指導を取り入れるなどの配慮をする。
PI12	・話を最後まで聞いて答えることが苦手な場合	発言するタイミングが理解できるように	事前に発言や質問する際のタイミングなどについて具体的に伝えるなど、コミュニケーションの図り方についての指導をする。

困難さの状態	指導上の工夫の意図	手立て
・学校行事における避難訓練等の参加に対し、強い不安を抱いたり戸惑ったりする場合	見通しがもてるよう	各活動・学校行事のねらいや活動の内容、役割（得意なこと）の分担などについて、視覚化したり、理解しやすい方法を用いたりして事前指導を行うとともに、周囲の生徒に協力を依頼しておく。

なお、学校においては、こうした点を踏まえ、支援の必要な生徒には個別の指導計画を作成し、必要な配慮事項を記載し、他教科等の担任と共有したり、翌年度の担任等に引き継いだりすることが必要である。

